

殺処分減へ繁殖防ぐ



獣医師による手術を受ける野良猫

県内で毎年多くの猫が殺処分される現状を変えようと、野良猫の捕獲から不妊・去勢手術までを行う事業が8日、筑後市で本格始動した。公益財団法人「どうぶつ基金」(兵庫県)が、地域の動物愛護団体と一緒に取り組む。月200匹を目標に、1年で野良猫2千匹超に手術を行う予定。

野良猫の一斉手術開始

筑後市で愛護団体 年間2000匹超予定

年度は1851匹で、うち子猫が1398匹だった。佐上邦久理事長は「殺処分される猫の大半が、生まれて間もない野良猫。繁殖を止めることで、不幸な猫を減らしたい」と話す。

今回の事業は来年3月まで月に数日ずつ行う。地域のボランティアが野良猫を捕獲。筑後市野町の空き事務所で、大川市からのボランティアを含む4人の獣医師が、持参した設備を使って手術を行つてから元の場所に戻す。今月は9日までに約200匹を手術する予定。

基金は全国の動物病院と協力し、毎年数万匹の猫に不妊手術を行つている。特に問題が深刻な地域は、スタッフや獣医師が出張して集中的に手術を行つておる、本年度は福岡を含む3府県を選んだ。

福岡は野良猫が多いのに協力病院が少ない、ボランティアや実施会場などの態勢は整つてない、などの条件を満たしていたとい

う。基金によると、県内で殺処分された猫は2018年

基金によると、県内で殺

www.doubutukikin.or.jp
(丹村智子)